

講師	テキスト スライドNo.	動画 スライドNo.	訂正前	訂正内容
黒澤健司実行委員	5		説明 「ヘテロ接合性の喪失Absence of heterozygosity:AOH」を説明	スライド表示の「ROH (Regions of homozygosity)」を「AOH」と言い間違え。ただし、「AOH」もcnLOH (copy-neutral loss of heterozygosity) も同義で、現在国際的に汎用されているのは「ROH」.
黒澤健司実行委員	19		i(12p)の説明	削除
黒澤健司実行委員	20		「マーカー染色体は15q12由来であったことがわかる」と説明	「マーカー染色体は15q11.2-q12領域を含むことが示唆された。分裂像FISHで検証することが望ましい。」が正しい。 原田先生の基本講義 (+marについて) も参照してください。
黒澤健司実行委員	45		「CNVの領域をp terminal 側, proximal 側から書いてdistal 側へ書く」と説明	CNVの領域の記載は、p terminalからq terminalへ向かって記載する。p terminal→q terminalの向きは、この例で示すように長腕ではproximal→distalとなるが、短腕ではdistal→proximalとなるため、一般的な説明としては不適切だった。
原田直樹実行委員	47	55	スライド 'Breakage-fusion-breakage (BFB) cycles' のタイトル 誤って2回'Breakage-Fusion-breakage'と説明 正常細胞に対し、ERBB2のコピー数のがん細胞では「8倍の増加」と説明	Breakage-Fusion-Bridge (BFB) cycles' が正しい。 'Breakage-Fusion-Bridge' が正しい 正常細胞に対し、ERBB2のコピー数のがん細胞では「4倍の増加」が正しい。
原田直樹実行委員	48	56	非相同末端結合 (Vi) 修復箇所には「数塩基の欠失が生じる」と説明	(Vi) 修復箇所には「数塩基の挿入欠失 (indel)が生じる」が正しい。
黒田友紀子実行委員	4		右に示す並び換えた染色体の群別分類で、XとYの分類がぬけていた	X染色体はC群、Y染色体はG群に分類されます。
黒田友紀子実行委員	5		図の引用が漏れていた。 「これらはISCNにも記載されています」と説明	引用元として「ISCN2005. S Karger Ag.」を追加 「これらはISCNから引用しています」が正しい。
黒田友紀子実行委員	18		「35歳を超える年齢の母から生まれた児に関しては、数的異常は85%、全頻度も1/50～」と説明	「35歳を超える年齢の母の胎児（羊水染色体検査の対象の15-16週頃）の数的異常は85%、全頻度も1/50～」が正しい。
黒田友紀子実行委員	20		「染色体異常の氷山」の引用が漏れていた	引用元として「Gardner,R.J.M, & Sutherland,G.R. (2004). <i>Gardner and Sutherland's Chromosome Abnormalities and Genetic Counseling. 3 edn.</i> Oxford Univ Pr.」を追加
黒田友紀子実行委員	24		「全染色体をみて21番が一番遺伝子数が少ない」と説明	「全染色体中で含まれる遺伝子数が最も少ないのはY染色体で、常染色体では21番が最も少ない」が正しい。
黒田友紀子実行委員	39		「腕内逆位で不均衡になる配偶子は不均衡が大きいのので生存できない」と説明	「腕内逆位で不均衡になる配偶子は二動原体か無動原体となるので通常は生存できない」が正しい。
黒田友紀子実行委員	45		G-bandの核型を「der(4)t(4;22)(p15;q12),-22」と記載	G-bandの核型を「45,XX,der(4)t(4;22)(p15;q12),-22」に訂正
黒田友紀子実行委員	58		9トリソミーモザイク症例 「染色体検査は、46XY」と記載	「染色体検査は、46,XY」が正しい。
黒田友紀子実行委員	68		引用の「福島」の記載	「福嶋」が正しい。